GAOT
Gunma Association of Occupational Therapists

一般社団法人
群馬県作業療法士会ニュース
「からっ風通信」　第154号　2023年10月発行

巻　頭　言

「言葉ではなくかたちにしたい」

群馬リハビリテーション病院　山口一幸

2013年の社会保障改革プログラム法の中で地域包括ケアシステムが政策として法的に位置づけられた当時、私はまだ作業療法士に成り立てで右も左も分からない状態で臨床に励んでいたのを覚えています。学校でQOLについて学び、作業療法士はADL・IADLが大事だと言われてきた身として、「重度な要介護状態となっても住み慣れた地域で自分らしい生活を最後まで続けられる」という文言をみて、これこそ私たちが考えるべき対象者の生活像ではないかと感銘を受けたのを覚えています。ただその当時はいざ地域包括ケアシステムを調べてみようと思っても出てくることは考え方や概念で、どうしたらこれが実現するのか、私が作業療法士としてどうしたらよいのかなどその当時は知るすべを私は持ち合わせておりませんでした。その時の心境として地域に出たいけどどうしたら出られるのか？地域リハ＝訪問リハなのか？という漠然とした不安と焦りの中で訳も分からず迷走していた時期を過ごしておりました。そして今現在、縁あって日本作業療法士協会の地域支援事業会議に群馬県の代表として出席しております。さぞ地域の事に詳しいのではと思う方もいるかと思いますが、決して私は地域に出てバリバリ活躍しているわけではありません。その会議では全国の都道府県士会の役職者が、自士会取り組みを報告し合い、全士会で作業療法士を市町村に配置し地域支援事業等に参画を目指していこうという取り組みが進められています。もちろん群馬県も例外ではありません。

前置きは長くなってしまいましたが、地域包括ケア推進グループでは地域局と共同にて群馬県の作業療法士が地域支援事業に参画していくためのシステムを検討しております。他職種合同の研修を開催すると「OTさんともっと関わりが持ちたいんですけど」といったご意見をいただくこともあります。実際に話をすると地域での作業療法士の必要性を肌で感じることが出来るからこそ、現状をもどかしく感じてしまいます。研修に参加して下さる作業療法士からは「どうやったら地域に出られるんですか？」と質問が出ることもあります。そういった声に応えるために作業療法士が地域に出て行くためのシステムが必要であり、地域特性や課題に即した群馬県版地域包括ケアシステムをかたちにしていきたいと思っています。その為に士会内の連携や会員の皆様のご理解・ご協力が必要です。今後地域包括ケア推進グループの活動にたいしてご理解いただき、みんなで楽しく繋がるるんるん精神で共に県内作業療法士の活躍の場を拡げる手助けをしていただけたら幸いです。

今現在違った意味で焦りを感じております。「もっとこうしたい」という思いを抑えつつ、周りの方々のご意見をいただきながら今できることの選択をしております。ぜひ皆様一緒に群馬県を盛り上げていきましょう。

特集記事!!

今回は当事者による手記の第4弾である。
群馬県立障害者リハビリテーションセンター（以下、センター）の「自立訓練（機能訓練/生活訓練）」を現在も利用されている障害者の方から、リハビリテーションの現場に向けた思いや願いをご本人自らパソコンで記して頂いた（センターの自立訓練とは、障害福祉サービスに該当し、社会生活を再び営めるように生活に根差した訓練・支援を実施する）。前回までは主に高次脳機能障害の当事者の方をピックアップしたが、今回は主に身体障害を有する当事者にも記して頂いた点が特徴である。
ご本人の意思が反映するように可能な限り原文のまま掲載した。なお、今回の特集に関して、ご本人から掲載の同意を得ている。センターの自立訓練について詳しくはHP（http://gunma-reha.jp）を参照されたい。

群馬県立障害者リハビリテーションセンター　髙橋洋輔

《自己紹介》
小さい時からあまり体が丈夫ではなかった
小学校まで超肥満児→いじめられっこ
食べることが大好きで栄養士になれる短大に進学
実習先の給食のおばちゃんにこっぴどくいじめられ、栄養士になることをあきらめ製薬会社の研究補助として就職
標本作りに熱中し、研究員さんにほめられたがどんなにがんばっても補助は補助でしかなく、一生役に立つ管理栄養士をめざす。→製薬会社では取れず転職
次の職場で実務経験を積み二回挑戦して管理栄養士の資格を取得
二度の転職を経験し、やっと家の近所の保育園に18年間勤めることになる。
海綿状血管腫から出血して入院、右半身に麻痺が残り現在に至る

孤独との戦い

入院中しばらくは個人部屋だった。着替えもひとりでできず話すのは看護士さんくらい。考えることは早く仕事がしたいと思うことだけ。不思議と入院中は手足はすぐに治ると思っていた。ただ子供がお見舞いに来てくれた時は家に帰りたくてしかたなかった。こんな地獄のような生活がどれくらい続くのか途方にくれるばかりだった。

地獄に仏

そんな時4人部屋に移る機会があった。最初は同室の人のいびきで眠れず、はやく個人部屋に帰りたいと思ったけど、だんだん仲良くなり冗談を言ったり、愚痴を言い合ううちに心が軽くなっていった。人は一人では生きていけない、そんな基礎的なことを今まで生きてきてはじめて思った。小さいときから人の顔色ばかりうかがい、人の目ばかりを気にしていた私にとって、これは本当に大きな変化だった。

再び絶望の世界へ

麻痺が良くなるのは大体4ヶ月でリハビリスタッフもそこまでに良くしようと必死にがんばってくれていた。しかし足のほうは良くなっても手のほうはまったく変化がなく、左手を使う練習がほとんどになっていった。でも奇跡を信じてがんばっていたが、退院直前に私を手術してくれた先生が「もう奇跡はおきない。右手のことはあきらめて左手で生きる覚悟をしなさい」と言ってきた。そして退院してすぐに職場に挨拶に行ったらずっとはげまし続けてくれた園長から「もう戻ってきてもあなたの席はない。良い機会だからゆっくり勉強でもして資格でも取れば」と言われ、目の前が真っ暗になった。

県リハとの出会い

明けても暮れても泣き続ける私を見かねて、夫がハローワークにつれて行ってくれたことが県リハを知るきっかけに。とにかく傷病手当の期間に良くなって職場に仕返ししたいという一心で県リハに通うことになる。最初は病院のようなリハビリをしてくれると思っていた。しかし自主訓練ばかりでどうしてなにもしてくれないのか毎日もやもやとしていた。

夫にも毎日なにもしてくれないことを訴え、それに対して自分でやらなければ良くならないと言われ続けた。でもその意味がわからなかった。

再び人との出会い

それまで県リハに行ってもだれとも話さず帰っていた。しかしPTが軽スポーツに参加してみたらと言ってくれ参加した。スポーツはもともと好きではなかったので乗り気ではなかったがその時初めてほかの人と関わることができた。それまで話したこともない人がとても親切にしてくれて何ヶ月も笑っていないことに気が付いた。あの日を境に私は人の言っていることを聞き入れることができるようになった。

そうやって県リハに通っているうちに、少しずつではあるが右手が動くようになった。良くなると思ってなかったので本当に嬉しかった。これも色々教えてもらったけど、努力したのは他ならぬ自分だったのだ。ようやく自分でやらなければ良くならないという言葉の意味を理解できた。この時には気持ちがだいぶ前向きになり、職場に対する思いも変わっていった。

この病気になってよかったこと

それまでこの病気になってよかったことなんて何もないと思っていたがこの時から良かったのかもと思うことが増えていった。まず子供と触れ合う時間が増えたこと。病気前はもしも願いが叶うなら子供との時間がほしいといつも思っているほど時間がなかった。それが思わぬ形で叶ってしまった。

次に、病気になって気づけたことが2点ある。人と関わることや笑うことの大切さを知ったこと。そして何でもやるのは自分だということ。そのためには過去を悔やまず今を生きるということが大事だと分かった。これは病気をしたことに関係なく大切なことで、私はそのことを病気をしたことによって気づかされた。奇跡は起きないかもしれないけどあきらめない。私があきらめてしまったらすべてが終わってしまうのだから。

作業療法士×他職種 コラボシリーズ

参加無料

第1弾

明日から実践! 押さえておきたいシーティングの基礎

日時▶令和5年8月9日(水)19:00～21:00
講師▶株式会社フロンティア　小鮒　優 様
会場▶ZOOMでのオンライン研修

第2弾

地域でつながりの輪を! 地域サービスの効果的な活用方法

日時▶令和5年12月14日(水)19:00～21:00
講師▶前橋市地域包括支援センター西部
主任ケアマネージャー　山田 圭子 様
会場▶ZOOMでのオンライン研修

《参加方法》

- パソコンやスマートフォン、タブレットをご用意ください。
- Wi-Fiなど通信環境が整った状態での受講をお願いいたします。
- ZOOMのアカウント名は、必ず氏名(漢字)を表記してください。
- 開始時間を過ぎての参加は、生涯教育ポイントを付与できない可能性があります。
  開始時間までにZOOMにサインインし、準備して頂くようお願いします。

《対象》いずれの研修も 先着100名
作業療法士 または 関連する職種 (地域医療･介護に携わる職種)

《申し込み》

第1弾 締め切り:令和5年 7月31日(月)18時まで
第2弾 締め切り:令和5年11月30日(木)18時まで
下記URLまたはQRコードへ必要事項を入力しお申込みください。
[パソコン/スマートフォン用フォームURL･QRコード]
第一弾:https://forms.gle/a5BfLNQn3ekfRxRA6
第二弾:https://forms.gle/BT2Kr47BwttZH9obA
※研修資料のデータ及び招待URLはメールにて研修数日前に送付致します。

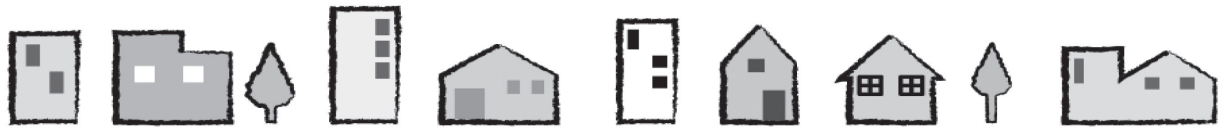
第1弾
第2弾

《問い合わせ》

研修内容について
群馬リハビリテーション病院 リハビリテーション部 山口一幸
〔TEL〕0279-66-2121(代表) 〔E-mail〕ggprw26022@yahoo.co.jp

申し込みについて
NPO法人ソンリッサ 早川和穂
〔TEL〕027-226-5013(代表) 〔E-mail〕chi_kirenkei7@yahoo.co.jp

★群馬県作業療法士会会員の方は基礎研修自由選択ポイント対象(2ポイント)となります。
※参加者の氏名及び日本作業療法士協会会員番号をこちらで管理させて頂き、後日ポイントが付与されることとなります。
ご了承ください。



群馬県作業療法士会 令和5年度第2回理事会議事録

日　時：2023年7月19日（水）19：00 ～ 20：30
Zoom使用でのリモート会議
参加者：新井、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、柴田、関根、高橋、都丸、長谷川、山口、吉岡、唐澤（監事）、以上16名（50音順に表記）

Ⅰ．各部議事

1．新井会長

新体制が発足し、今回は各養成校からそれぞれ1名理事に就任していただいた。今後、学生含め若い世代に参画してもらうことが重要であり、会運営や県士会・協会等の団体活動の意義について周知していく必要がある。

今後政治活動を視野に入れた場合には連盟の設立などが課題となる。

2.福祉用具委員会［担当：石森理事］

1）報告事項
①福祉用具相談支援システムの県士会員登録状況
令和5年7月11日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は41件、相談件数は2件。
②生活活行為工夫情報事業への参画
令和5年5月25日付で日本作業療法士協会生活環境支援室へ日本作業療法士協会生活行為工夫情報事業参可申請をし、受理された。
③令和5年7月9日、2023年度生活行為工夫情報事業第1回ブロック連絡会（東部ブロック）に石森卓矢が参加した。
2）審議事項：なし

3.福利厚生部［担当：小此木理事］

1）報告事項
①休会制度の実施状況
2023年7月19日現在2名が利用
引き続き、福利厚生部で利用に関しての情報発信を行っていく
②表彰関係について
新人症例発表会の新人優秀演題賞を予定。
担当者変更：設楽氏から小田氏に変更。
2）審議事項
①女性作業療法士向けアンケートについて実施の可否
フォーム上でのアンケート調査を予定。結果は県学会で報告
⇒アンケートの対象を女性に絞る必要があるかどうかについて、また、標記の仕方についても、再検討する必要があり。
審議結果：継続審議
②リレーフォーライフ2023の参加の可否について
実施日：2023年10月7日（土）-8日（日）
昨年度の参加団体：職能団体：医師会、看護師協会、理学療法士協会、診療放射線技師会、臨床検査技師会、薬剤師会
青年部病院11施設、大学や企業23施設
審議結果：可　参加していく方向で

4.広報部［担当：都丸理事］

1）報告事項
①公益事業グループ（グループ長：中澤）
・6月に部会開催、高校生を対象としたOT啓発イベントを8月8日（火）オンラインにて開催予定。県内高校に募集案内を郵送。ノベルティグッズの作製を継続して進めている。
・現在実施可能な広報活動としてイオン高崎等のショッピングモールでのリーフレット配布を予定している。
②ニュース編集グループ（グループ長：反町）
・7月号発行準備中。県士会各部のニュース記事依頼、募集の窓口となって下さる方についてご検討ありがとうございます。広報部の方で、ニュース掲載に関して取材等のご要望がある場合は検討。
③広報企画グループ（グループ長：金子）
・公益事業G と合同で活動実施。
2）審議事項：なし

5.教育部［担当：勝野理事・今村理事］

1）活動状況
会議：ブロック長会議
コロナウイルス流行のため、メールで随時審議を実施。
5/30、6/26にzoomにてリモート会議実施。
2）報告事項
①令和5年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修
「作業療法生涯教育概論」
講師：柴田副会長 日程：8月24日 19時～
「職業倫理」講師：長谷川事務局長 日程：10月25日 19時～
「保健・医療・福祉における地域支援」
講師：山口G長 日程：11月22日 19時～
選択研修「老年期障害」
講師：悴田OTR、小池OTR、真塩部長、大手OTR
日程：1月28日基礎ポイント研修「3Dプリンタについて（仮）」
講師：宇都宮先生（イムス横浜戸塚総合病院）
日程：10月4日 19時～
②令和5年度 新人症例発表会
日時：令和5年7月23日　発表者40名（査読希望者なし）
方法：zoom（3ルーム3セッションでの開催）
運営：運営本部は一部のメンバーは対面。（群馬医療福祉大学）。人数：事例報告者39名。事例検討者9名。
当日運営の教育部スタッフ（約20名）を各ブロックで確保する。体験会：6月26日に実施済み。
冊子：参加者へ郵送済み
③県士会印について
教育部管理の印鑑4つが事務局での保管になりました。
④研修会BOXの所有者確認
北中毛：登山ブロック長　　西毛：群馬整肢療護園
東毛：須田ブロック長
⑤県士会ニュースの巻頭言：水上研修企画G長が担当。
3）審議事項：特になし

6.地域作業療法推進部［担当：高坂理事・勝野理事］

1．報告事項
1）地域包括ケア推進グループ（山口グループ長）
① 令和5年5月18日、6月15日に定例会議を実施した。ナイトセミナー開催に向けた検討をした。
②令和5年6月6日、7月5日に関東信越ブロック会議が開催され、高坂理事、山口グループ長が参加した。
③令和5年6月23日に第1回地域事業支援会議が開催され、群馬県からは高坂理事、山口グループ長が参加した。
④令和5年7月13日に県内市町村への担当者配置、地域支援事業への作業療法士の参画に向け、地域局との合同会議を実施した。当会が抱える地域支援事業関連の課題や今後

の合同会議の継続について共有を図った。
2）認知症支援推進グループ（笹谷グループ長）
①令和5年群馬県地域医療介護総合保険確保基金事業の研修会（全2回）
「認知症ケア資質向上のための研修会」の依頼調整が進行している。〈第1回目〉日時：令和5年10月7日（土）13：00～
場所：web（基地局：マーキュリーホテル） 時間：13：00～
講師：山上徹也氏（群馬大学）・木村大輔氏（松井田病院　言語聴覚士会会長）・反町彩氏（上毛病院　精神保健福祉士）に確定している。
〈第2回目〉日時：令和6年2月10日（土）13：00～
場所：高崎市総合福祉センター（対面） 時間：12：00～
講師：大手真栄氏（和光園）は確定。三俣和哉氏（三和会）・日本認知症官民協議会は連絡調整中となっている。講師の確定次第、チラシの作成など広報の準備を始めていく。
②家族の会のつどいに、笹谷・野村が継続して参加している。（5月28日・6月25日）
③家族の会主催の研修会情報などをGAOTのHPに掲載依頼した。
3）精神科領域推進グループ（加藤グループ長）
①情報交歓会に向けて若手OT向けのアンケートを作成している。
②第2回全体会議を7月下旬から8月上旬に実施予定である。
4）発達支援推進グループ（六本木グループ長）
① 5月24日に群馬県教育委員会特別支援教育課へ六本木G長と吉岡氏が訪問。外部専門家派遣事業の方針確認と、『学校を理解して支援ができる作業療法士の育成研修会（基礎編）』の主旨説明および講師のお願いをした。
② 6月14日19：00～20：30に第1回定期勉強会をオンラインにて開催した。参加者数は23名（全て県士会員）で外部専門家派遣事業についての説明を行った。
③研修会企画委員会議をオンラインで5月17日、6月1日、6月5日、6月7日、7月5日にオンラインで開催した。

2.審議事項

1.日本作業療法士協会 からの情報提供について
ニュースレターの発行がされる予定。頻度は未定。通知方法等をどのようにするか。
審議結果：HP及びメールでの通知を行うこととなった。
2.事業参画に関するアンケート調査について
7月～8月にかけて士会の各市町村担当者に対し、作業療法士の地域支援事業参画に状況を把握するためのアンケート調査が実施される予定。対応は各県士会に委ねられているため対応方法について協議したい。
協議結果：本件については地域局の方で扱っていく。各ブロック長及び二次医療圏担当者等の連携を図って対応することとなった。引き続き地域局、地域作業療法推進部と連携して勧めていく。

7.養成校連絡協議会［担当：高坂理事］

1） 報告事項

①令和5年度臨床実習指導者講習会は、以下の通り実施予定である。7月号県士会ニュースで案内予定である。
日時：令和5年10月28日（土）～29日（日）
終日会場：群馬パース大学（対面） 人数：50名
募集：～8月上旬までに開始
②学生会員入会状況について
会員数：学生会員 108 名（太田：40 名、群医福大：13 名、群大：22 名、パース：15 名、前橋：18 名）

8.財務部［担当：高橋理事］

1）報告事項

①会費未納者へ督促状作成中。
②今年度の出納帳を配布予定。 活動費・交通費に関してできるだけ配布したもので報告をお願いしたい。

2）審議事項

①補正予算の申請　補正予算金額：￥60,000
内容：a.弥生会計ソフトの購入
今まで使用していた弥生会計が古くなってしまい更新も不可そのため新しい弥生会計ソフトを購入したい。
b.ネットバンキングでの負担が一人に集中してしまうため、トークンという機械増やして対応したいがいかがか？1台\2,2002個増やして3台へ
質問：Q柴田副会長
新しい弥生会計ソフトは、現在の財務PCで対応しているのか？
A高橋財務理事
対応していることは確認済み　審議結果：可

9.群馬県理学療法士協会、群馬県作業療法士会、群馬県言語聴覚士会連絡協議会日本訪問リハビリテーション学術大会について［担当：小此木理事］

1）報告事項

①発起人会（第1回訪問リハビリテーション学会準備委員会）が開催された。
当会より都丸理事、勝野理事、小此木、小暮OT（前橋協立病院）が実行委員
②学会役員編成について
大会長： 新谷氏　理学療法士（うららく）
副大会長：群馬県理学療法士協会会長
群馬県作業療法士会会長
群馬県言語聴覚士会会長
実行委員長：田村氏　理学療法士（孫の手前橋）
事務局長 ：小此木理事 作業療法士（訪看まつかぜ）
相談役 ： 山路 氏 理学療法士（POS連絡協議会会長）
③今後の予定
8/1に第2回訪問リハビリテーション学会準備委員会開催予定。テーマ等を決めていく。

2）審議事項：特になし

10.地域局［担当：小此木理事・今村理事・柴田副会長］

1）報告事項

［西毛ブロック支部］
①7.13地域作業療法推進部と連携を図る会議を行った。
②群馬県作業療法学会について
6月14日に主要メンバーにて進行状況確認の会議を実施した。学会スケジュールや講演、ワークショップ内容が決定し、学会に向けた準備を行っている。
③医療介護連携フェスティバル in 高崎について
6月23日に令和5年度医療介護連携フェスティバルの説明会へ都丸理事、山浦が参加した。今年度は、メインコーナーを多職種協同で「人生会議（認知症編）」ならびにサブコーナーをOT士会として「アンチエイジング体操」を作成していく予定。
［北中毛ブロック支部］
④沼田市包括支援センターへ挨拶に行った。
［東毛ブロック支部］
⑤学会会場視察、運営会議を実行委員と連携し行った。

3）審議事項　なし

11.運転と作業療法特設委員会[担当:李理事　今回欠席の為、長谷川事務局が代理]

1)報告事項

①2023年4月19日(水)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で群馬県内の指定自動車教習所と情報交換会を実施した.

②2023年5月18日(木)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で,群馬県警察交通部運転免許課適性検査係担当者と面談を行った.

③2023年6月10日(土)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で世話人会を開催した.

④2023年9月2日(土)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で世話人会を開催予定.

⑤2023年10月28日(土)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で研修会を開催予定.

2)審議事項

①後援の申請について

2023年10月28日(土)にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会研修会を開催予定

群馬県作業療法士会には「後援」申請依頼　審議結果:可

12.学術部[担当:李理事 今回欠席の為、長谷川事務局が代理]学術部長　牛込

1)報告事項

①学術研究グループ　グループ長　近藤　健

2023年度学術部勉強会(学会支援企画)を2回開催した。

②学会支援グループ　グループ長 野口 直人

第25回群馬県作業療法学会の運営支援(公文書作成、HP運営、財務管理)を行った。

③機関誌編集グループ　グループ長 糸井 陽祐

機関誌、投稿論文5編あり。現在査読作業中。

2)審議事項:なし

13.事務局[担当:事務局　長谷川]

1)報告事項

①新入会状況について

7月18日までの新入会申し込み状況について新入会:21名

クレジットカード決済:12 名銀行振り込み:9名

②協会員-士会員　会員突合作業について県士会会員データを協会へ通知

③代議員選挙運営委員の推薦の件

高橋理事に運営委員をしていただくこととなった。

④リハ専門職の処遇改善等に係る地方選出国会議員等への訪問について

日本作業療法士協会の資料を共有することとなった。

2)審議事項

①代議員選挙について(9月の理事会で審議)

前回は、定数通りの立候補者であったため、選挙行われず。今回の代議員について立候補者がいない場合は、理事会で継続審議行うこととする

②本年度　理事分担。組織体制について

基本的に留任している理事については、継続いただくこととなった。今年度新たに就任された理事の分担については下記の分担案が挙がり、最終的な分担については3役での会議、メール審議等で継続審議を行うこととなった。分担の際には現職理事の負担の集中を避けるために必要な処置を講ずることとなった。

[理事会案]

副事務局長:石森理事

POS連絡協議会　介護予防部:小林理事

養成校連絡協議会:小林理事・

学術部:吉岡理事

財務部:欠員1名未定

福利厚生部:欠員1名未定

地域作業療法推進部　発達支援推進グループ:吉岡

IIその他

1.新井会長

1)名誉会員および顧問等の整理を進めていきたい。必要な規約等についても検討

2)表彰等の候補者についてリストを作成する作業を開始したい。事務局が対応する。

2.次回理事会9月27日(水)19:00～ Zoomにて実施予定とする

群馬県作業療法士会 令和5年度第3回理事会議事録

日　時：2023年9月27日（水）19：00 ～ 21：00
Zoom使用でのリモート会議
参加者：新井、石森、今村、小此木、勝野、木村、高坂、小林、柴田、関根、高橋、都丸、長谷川、山浦、山口、吉岡、唐澤（監事）、以上　17名（50音順に表記）

Ⅰ．各部議事

1．新井会長

9月9日の日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会48団体連携協議会に参加した。会議では、こども家庭庁、日本脳卒中医療ケア従事者連合への作業療法士の関与についての重要性について話があった。また、組織率低下に対しての作業療法士協会の方針について話があった。その他、訪問による認知症のリハビリテーション、eスポーツなどにおける作業療法士の活動と効果について話があった。協会員＝士会員の実現については議論があり、時間がかかる可能性がある。

日本作業療法士協会の5ヵ年戦略等に合わせ、群馬県作業療法士会の事業計画を各理事には考えていってほしい。

2．山口副会長

9月10日の日本作業療法士協会及び都道府県作業療法士会48団体連携協議会に参加した。会議では主に組織率低下について話があがり、組織率低下については、若い作業療法士の入会を目的とした取り組みが重要であるとの意見が多かった。また、組織率低下については、保険などの福利厚生などの様々なアイデアがあり、参考になる意見があった。

3.福祉用具委員会［担当：石森理事］

1）報告事項

①福祉用具相談支援システムおよび生活行為工夫情報事業の県士会員登録状況

令和5年9月25日時点において、福祉用具相談支援システムの登録者数は41件、相談件数は2件。生活行為工夫情報事業については、次回ニュースにて県士会員へ事業内容および群馬県作業療法士会が事業に参画した旨を周知する。

②令和5年度補装具費支給制度書面ヒアリング

日本作業療法士協会を通じて、厚生労働省　障害保健福祉部　自立支援振興室より、補装具費支給基準告示の次期改定に向けての書面ヒアリングがあった。各ブロック長を通じて県士会員より意見を募ったが、意見がなかったため、群馬県作業療法士会からの意見提出は見送りとした。

2）審議事項：なし

4.学術部［担当：李理事・吉岡理事］

1）報告事項

①学術部長（牛込祐樹部長）

・第25回群馬県作業療法学会の運営支援を実施した。
・第26回群馬県作業療法学会の運営支援を実施した。
・学術部グループ長会議を実施予定。

②学術研究グループ（近藤グループ長）

・学術部研究グループの勉強会をこれまでに4 回実施した。
・全国OT学会（沖縄）で発表する3名のスライド・ポスター作成支援、群馬県作業療法学会で発表する1名のスライド作成支援を行っている。
・第25回群馬県作業療法学会一般演題の査読管理業務を行った。

③学会支援グループ（野口直人グループ長）

・第25回群馬県作業療法学会の運営支援（公文書作成、HP運営、財務管理）を行った。
・第26回群馬県作業療法学会実行委員会と打ち合わせを実施した。

④機関誌編集グループ（糸井陽祐グループ長）

・2023年度機関誌投稿論文に対する査読業務を実施。5編投稿あり。
・第25回群馬県作業療法学会実行委員会に参加し、学会誌・機関誌の作成について打ち合わせを実施した。
・2023年度機関誌・学会誌について、9月にはゲラ刷り依頼し、事務局には10月下旬での納品を予定している。

2）審議事項：なし

3）事務局からの依頼

群馬県作業療法学会の参加費について、Peatixの導入を検討してほしい。

5.運転と作業療法特設委員会［担当：李理事］

1）報告事項

①2023年9月2日（土）にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で世話人会を開催した。
②2023年10月28日（土）にぐんま自動車運転リハビリテーション研究会と合同で研修会を開催予定。

2）審議事項：なし

6.教育部［担当：勝野理事・今村理事］

1）活動状況

会議：ブロック長会議
コロナウイルス流行のため、メールで随時審議を実施。
9/13にzoomにてリモート会議実施。

2）報告事項

①令和5年度 現職者共通研修・選択研修・基礎ポイント研修

・現職者共通研修「作業療法生涯教育概論」
日時：2023/8/24　講師：柴田副会長　参加者：24名
・現職者共通研修「職業倫理」
日時：2023/10/25　講師：長谷川事務局長
・現職者共通研修「作業療法における協業・後輩育成」
日時：2023/10/30　講師：都丸理事
・現職者共通研修「保健・医療・福祉における地域支援」
日時：2023/11/22　講師：山口グループ長
・現職者共通研修「事例報告と事例研究」
日時：2023/11/8　講師：山下OTR
・現職者選択研修（老年期領域）
日時：2024/1/28　講師：悴田OTR、小池OTR、真塩部長、大手OTR
・基礎ポイント研修（身障）
日時：2023/10/4　講師：近藤グループ長、宇都宮先生（イムス横浜東戸塚総合リハビリテーション病院）
・基礎ポイント研修（精神）
日時：2023/12/8
講師：島田先生（メンタルサポートそよかぜ病院）

②令和5年度 新人症例発表会（zoom開催）

日時：令和5年7月23日　事例発表者：39名
事例検討者：9名
次年度の新人症例発表会統括は群馬整肢療護園の吉田

OTR。開催方法は対面を検討中。
抄録の書式について来年度から県学会やOT学会の書式と合わせるか検討していく。
③県学会のポイント申請について
生涯教育Gへのポイント申請の際に、教育部で使用しているExcelデータの名簿を使用してもらうよう依頼していく。
④現職者共通研修、基礎ポイント研修について
主催する部が自由采配で、他県の参加者のポイント付与は可能。
⑤県士会印について
教育部管理の印鑑4つが事務局での保管となった。
⑥研修会BOXの所有者確認
北中毛：登山ブロック長　西毛：群馬整肢療護園
東毛：須田ブロック長
⑦県士会ニュースの巻頭言：水上研修企画グループ長が担当。
3）審議事項：なし

7.地域作業療法推進部［担当：高坂理事・山浦理事］
1）報告事項
①地域包括ケア推進グループ（山口グループ長）
・7月20日、8月24日に定例会議を実施した。
・7月13日に地域包括ケア推進グループと地域局の役職者で市町村担当者配置事業に関する意見交換会を実施した。
・8月9日ナイトセミナー「明日から実践！押さえておきたいシーティングの基礎」を開催した。講師に株式会社フロンティア群馬営業所小鮒優様をお招きし、講義とGWを実施。参加者53名、他職種（PT、ST、栄養士、CM、社会福祉士）の参加があった。
②認知症支援推進グループ（笹谷グループ長）
・士会における認知症に関する活動報告をまとめた。JAOTのHPに全国都道府県の活動報告のページに掲載されている。
・9月7日、457施設に第1・2回目の上記研修会のチラシを送付した。
・認知症の人と家族の会の「つどい」に継続的に参加している。
・9月17日の家族の会主催の記念シンポジウムの運営協力に入る。
③精神科領域推進グループ（加藤グループ長）
・情報交歓会に向けての若手OT向けのアンケートを作成中である。
・8月3日第2回定例会議を実施した。
・令和5年度自殺予防対策研修会の内容について検討中である。
④発達支援推進グループ（六本木グループ長）
・7月12日19:00～20:30で第2回定期勉強会をオンラインにて開催した。テーマは『学校訪問の事前準備と対応の方法の検討』でグループディスカッションを含む内容。参加者は15名（全て県士会員）。
・研修会企画委員会議をオンラインで7月26日、8月30日にオンラインで開催した。
・9月13日19:00～21:00で第3回定期勉強会をオンラインで開催した。テーマは『教育現場から求められる専門家とは…？～教諭が求める支援にこたえられる作業療法士になろう!～』講師は北爪　浩美氏（作業療法士・anomira代表）。参加者数81名（県士会員30名、他県士会員18名、非会員2名、教員21名、他職種10名）であった。
2）審議事項
①発達領域推進グループの公式LINEアカウントの利用について
若年層の勉強会参加や外部専門家派遣事業登録者拡大を促すため、新たな情報発信ツールとしてLINE公式アカウントの利用を考えている。メールと比較し開封率が高く、Instagramでは出来ないURLの掲載も可能であり、勉強会申し込みなどの手続きが容易になる。まずは無料契約（月200通）で試用を行いたいので、アカウントの取得について承認をいただきたい。なおアカウント取得の際は発達支援推進グループのアドレスを使用する。（別添資料参照）
審議結果：発達領域推進グループの公式LINEアカウントを作成することが承認された。
②広域支援センターへのアンケート内容
市町村からの依頼内容や作業療法士に対するニーズなどを把握する目的としてアンケートを行う予定。別途資料の内容でよいか承認をいただきたい。（別途資料参照）
審議結果：別途資料のアンケート内容で実施していくことが承認された。
3）確認事項
今年度から出納帳が配布されるということですが導入はいつ頃になるか。
→近日中に財務部から送付する。

8.養成校連絡協議会［担当：高坂理事］
1）報告事項
①令和5年度臨床実習指導者講習会を以下の通り開催する。
日時：令和5年10月28日（土）～29日（日）終日
会場：群馬パース大学（対面）
参加者：30名
②第25回群馬県作業療法学会の開催と併せ、ビエント高崎の一部ブースをお借りして学生交流会を企画している。詳細は、今後検討予定である。
2）審議事項　なし
3）確認事項
規程の変更に伴い、日当に加えて交通費が発生する形でよいか。
→その通りである。弁当代については、費目を研修会などの事業で発生した場合は事業運営費、会議で発生した場合は会議費として申請する。費用額については予算内におさえることを目安とする。

9.広報部［担当：都丸理事）
1）報告事項
①公益事業グループ（グループ長：中澤）
・高校生を対象としたOT啓発イベントを8月8日（火）オンラインにて開催。2名の高校生が参加した。
・ノベルティグッズの作製が完了。広報イベントで配布予定。今年度中にショッピングモールなどでのリーフレット配布活動を予定している。
②ニュース編集グループ（グループ長：反町）
・現在10月号の発行準備中。10月号発行後は1月号の発行となる。掲載記事がある場合には1月10日頃までのデータ送付をお願いしたい。
・来年度よりニュース編集の担当変更を予定しており、現在引継ぎを行なっている。
③広報企画グループ（グループ長：金子）
・公益事業Gと合同で活動実施。各部と情報を共有し必要な外部情報の収集とまとめを行っている。
2）審議事項　なし

10.福利厚生部[担当:小此木理事)

1)報告事項

①RFL(リレーフォーライフぐんま)の参加について

現状、参加予定者は12名前後。2日目の朝方が少ないため、周知を依頼したい。作業療法士会のブースのイベントについて、一般の参加者もいるため広報部と調整し、ポケットティッシュ、パンフレットの無料配布を予定している。また、作業療法士会のブースへ来場した子供には、折り紙(内容は検討中)で楽しめるようにしていく。大人が来場した際には花の形をした付箋に元気の源を書いて模造紙に貼ることで、作品作りをイベント来場者と一緒に行っていく予定。

2)審議事項

①女性作業療法士向けアンケートについて実施の可否

アンケートをライフイベントに対するアンケートに修正した(別紙参照)。アンケート内容の審議をお願いしたい。今後の流れについては、作業療法士の在席している事業所へのメール送信、県士会ニュース「からっ風通信」への掲示を予定している。アンケートは基本Googleフォームで県内の作業療法士に向けて実施していく。アンケート結果は、県学会にて学会ブースを利用して結果の提示を行っていく予定。

審議結果:別途資料のアンケート内容で実施していくことが承認された。

11.群馬県理学療法士協会、群馬県作業療法士会、群馬県言語聴覚士会連絡協議会/日本訪問リハビリテーション学術大会について[担当:小此木理事)

1)報告事項

現在、テーマとポスターについて検討している。テーマは三役で候補が絞られ次回の実行委員会で決定していく予定。ポスターデザインについて、星野富弘様の絵を使用する事が　決まり許可も頂いた。また、学会専用口座を選定しているが、インターネットバンキングの団体名使用などで難航している。

次回、10月3日実行委員会予定。テーマの決定とポスターの検討、実行委員会の仕事について話し合う予定となっている。

2)審議事項　なし

12.地域局

[担当:小此木理事・山浦理事・今村理事・柴田副会長]

1)報告事項

①北中毛ブロック支部(小此木理事)

・二次医療圏担当について

渋川圏域の担当であった渋川中央病院の主任者が退職。代わる主任者もいないため辞退の連絡。群馬県立小児医療センターの六本木様が2年間限定的に担当となった。

・2025年群馬県作業療法学会の学会長の選出を検討している。

②西毛ブロック支部(山浦理事)

[群馬県作業療法学会について]

・学会主要実行委員会議

9月19日に学会誌担当、広報担当、ポスター担当を交えて会議を実施。学会誌、学会ポスターは最終調整段階。

・今後の予定

運営マニュアルの作成、9月末～10月上旬に学会実行委員会を実施予定している。

・医療介護連携フェスティバルin高崎について

9月28日に寸劇の撮影予定、老健ココンの北川OTRが参加する。

・西毛ブロック支部会議(二次医療圏担当者向け)

9月25日に二次医療圏担当者に対して、群馬県OT士会における地域支援事業に参画するための体制の現状と課題、市町村あいさつ回りに向けた説明会を実施。

・令和5年度認知症カフェ運営者・多職種交流会について

11月20日に実施される。老健和光園の大手OTR、七日市病院の山浦が参加する予定。

・その他

11月23日、オレンジカフェ(高崎市高齢者あんしんセンターなみえ)での講演依頼あり。山浦が対応していく。

③東毛ブロック支部(今村理事)

・9月12日太田市宝泉地区介護予防事業に美原記念病院飯野OTが対応した。

・9月25日同事業について孫の手は今村が対応した。

・令和6年度 県学会に関しての準備・実行委員準備中

2)審議事項　なし

13.第26回群馬県作業療法学会

[担当:石森理事・今村理事・小林理事]

1)報告事項

学術部合同で第一回実行委員会議を行った。

2)審議事項

以下の概要で第26回群馬県作業療法学会を運営してよいか審議したい。

①会期:2024年9月1日(日)

②テーマ:原点回帰～群馬県の作業療法から学ぶ～

③会場:太田医療技術専門学校

審議結果:上記の概要で学会を実施することについて承認された。

14.事務局[担当:長谷川事務局長・石森副局長)

1)報告事項

①求人広告依頼が2件あり掲載済み。

②会員入会について、クレジットカード決済が未決済の会員が4名ほどいるので、事務局で対応する。

④会費減免事業について9/24現在4名申請済み→処理されています

2)審議事項

①慶弔規程について

群馬県作業療法士会において慶弔規程を設けたい。以下の内容で良いか審議したい。

(趣旨)

第1条　この規程は、一般社団法人群馬県作業療法士会(以下「本会」という。)の慶祝および弔慰について定める。

(対象)

第2条 本会の正会員、監事とする。

(慶祝)

第3条 正会員が結婚する場合は、祝電をもって慶祝する。

(弔慰)

第4条　正会員が死亡した場合は弔電および本会役員が参列し香典ならびに献花等のいずれかをもって弔慰とする。

(香典の基準)

第5条 香典は、1件につき1万円を上限とする。

(特例)

第6条 第2条、第3条、第4条および第5条に定めない事例が生じた場合は、その都度会長、副会長、事務局長が協議し決定する。

第7条　慶弔等の事例発生後2ヶ月を経過した場合は対象としない。

第8条　慶弔の事例が発生した場合は、会員または関係者がすみやかに事務局あてに連絡するものとする。
（規程の変更）
第9条 この規程は、理事会の議決がなければ変更できない。
審議結果：結婚については対象としない。また、その他修正して次回理事会にて再度提示する。

②本年度理事体制について
前回理事会議事録より、変更したものについて2023年度組織図を赤字で編集した。
副事務局長：石森理事
POS連絡協議会　介護予防部：小林理事
養成校連絡協議会：小林理事
学術部：吉岡理事
財務部：欠員１名未定
福利厚生部：欠員１名未定
地域作業療法推進部　発達支援推進グループ：吉岡理事
現在、部署未定の理事の配置及び欠員について
審議結果：上記に加え、財務部に小林理事、地域局に木村理事、福利厚生部に勝野理事、また、POS連絡協議会介護予防部を小林理事から木村理事に変更とする。

③発送物の発送を月1回にまとめることについて
研修会の案内通知の発送などは、他の部署と併せて行いたいと存じます。そのため、月1回にまとめて発送することを検討しております。
毎月、1回、日付を決めて発送することについて、ご意見をいただきたく存じます。
また、学会誌、名簿、県士会ニュースなどの発送物がある場合は、いままで通り、その発送物と併せて行う予定です。
尚、講師の公文書、委嘱状、領収書等の個人への発送及び、市町村窓口や他団体への文書等の発送については、これに含みません。
審議結果：月１回に発送物をまとめて送る形で事務局内で方法を検討していく。

3）ご連絡・お願い（重要）
委嘱状の関係で、各部署の部長さんなどの人員配置をご確認のうえ、修正がある場合は事務局（長谷川）までご連絡ください。

IIその他

1.小林理事

1）報告事項
①太田医療技術専門学校委員会への派遣
　太田医療技術専門学校の職業実践専門課程に申請される作業療法学科の教育課程編成委員会に、石森卓矢理事を委員として派遣した。

2.関根副会長

1）報告事項
①災害対応委員会として災害対応訓練を実施した。
②群馬県日本災害リハビリテーション協会との会議を実施した。

3.次回理事会はメールにて石森理事から確認していく。

ライフイベントに関するアンケート

現在、福利厚生部にて、群馬県に従事している作業療法士の皆様がライフイベント（出産、育児、介護等）に向けて、日頃感じている不自由さや必要と感じている支援について、調査をし、群馬県作業療法士会の運営に繋げていきたいと考えています。
皆様のご意見を反映した活動とするためにも、皆様のご協力をお願い致します。なお、調査は匿名となるため、一人1回の回答とさせてください。
以上、同意いただける方は、ご回答ください。

できる限り多くの意見を募りたいと考えていますので、よろしくお願い致します。

アンケート記載は
こちらのURL、QRコードへお願い致します。
URL：https://forms.gle/xLq73QNVjfR1mHDw6

問い合わせ、ご不明な点はお手数ですが、以下にご連絡下さい。
群馬県作業療法士会　福利厚生部部長　設楽俊史　toshifumi.amuse@gmail.com

得られた調査結果は公表し県士会活動に活用させていただきます。

Report;家族の会 シンポジウム

地域作業療法推進部　認知症支援推進グループ　笹谷朋弘

9月17日、前橋市の県社会福祉総合センターにて認知症の人と家族の会群馬県支部主催の記念シンポジウムの運営に協力させて頂いた。

毎年開催しており今年のシンポジウムのテーマは「コロナ禍を振り返り、これからの認知症ケアを語る」と題し、認知症の方を介護している家族やケアマネージャー、病院看護師ら計9人がそれぞれのコロナ禍での経験や今後の認知症ケアにおける思い等を語った。

介護家族者からは、同居している家族がコロナに感染し今まで利用していたサービスが全て途絶えた話を紹介され「支援の網の隙間から抜け落ちたと感じた」と話し「共に伴走してくれる専門職がいればどれだけ心強いか」と思いを話して頂いた。

つい我々専門職は解決策ばかりを提案してしまうが、今回のシンポジウムを聞く中で家族介護者の思いや悩みを聞き支援していく大事さを改めて感じた。また「共に伴走してくれる専門職」という言葉を聞き私はどうだろうかと考えた。対象者本人や家族等と信頼関係はどうだろうか。本音で言い合えるような関わりは出来ているだろうか。今後自分の関わり方なども考え直すきっかけにもなった。

施設や病院側からの語りでは、入所者家族やスタッフとの信頼関係の構築や緊急時のシミュレーション等が必要ではないかと今後のケアの関する具体的な提案が出た。

今回様々な立場でコロナ禍を振り返り、今後のケアに関する話し合いを聞けたことは充実した時間となった。今回のシンポジウムの経験を踏まえて認知症支援推進部として今後どのような展開をしていくか考えていきたいと思う。

～お知らせ～

認知症に関する都道府県の活動報告(2023)

日本作業療法士会協会のホームページの「お知らせ」欄に47都道府県の認知症に関する活動報告の記事が公開されています。様々な県士会の活動を覗いて見て下さい。

(ぜひ群馬も!)

施設紹介

社会医療法人輝城会
かがやき訪問看護ステーション

当事業所は吾妻郡東吾妻町に位置し、渋川市にはサテライトがあります。訪問看護は、吾妻郡全域、渋川市、吉岡町、榛東村と広範囲に渡って実施しており、スタッフは、看護師11名(内非常勤1名)、理学療法士10名(非常勤8名)、作業療法士5名(非常勤1名)、言語聴覚士3名(非常勤3名)、事務2名(非常勤1名)が在籍しています。対象者の疾患としては、脳血管疾患、循環器疾患、整形疾患をはじめ、難病や終末期、精神疾患などであり、急性期、回復期、精神科病棟など様々な分野での経験スタッフと意見交換を行いながら、利用者一人一人にあった支援を実施しています。また、吾妻脳神経外科循環器科病院、沼田脳神経外科循環器病院をはじめとする各医療機関や地域の介護サービス事業所、ケアマネージャーなどの多職種で密に連携を図り、退院直後から安心して療養生活が送れるよう、生活状況や身体状況を把握し臨機応変に対応しながら生活援助、緊急時の対応等を行っています。

訪問リハビリの利点としては、実際の生活場面に関わることで、より現実的な問題点が明確となりHOPEやNEEDに沿った具体的な対策やアドバイスを行えることです。また、介護を行う家族に直接接する機会が多い為、療養生活での不安や介護負担などを聴取しながら、状況変化に応じた環境調整やアドバイス等の支援が行えます。担当制をとっていない為、複数のスタッフが訪問し色々な視点で情報交換をしながら、よりよいリハビリ提供ができるよう日々検討を重ねています。また看護師との連携も図りやすい環境にあり、リハビリのみ利用している利用者でも、看護師同行にて定期的な評価を行い、緊急時・急変時に対応ができるよう努めています。

高齢化が進み、地域医療の重要性が高まっている中で、自分たちに求められているものを再認識し、利用者様やご家族様にとって充足した過ごしやすい生活が送れるよう、チーム一丸となって今後も取り組んでいきます。

作業療法士募集

医療法人恵愛会青木病院

当院は栃木県足利市にございます、精神科病院です。地域医療に貢献することを理念に掲げ、社会復帰施設の充実に着手しております。入院から就労支援まで切れ目のないリハビリテーションを展開しています。

■募集人員 1名
■雇用形態 常勤/非常勤
■資格 作業療法士
■勤務時間　雇用形態に応じる
■業務内容　①院内外作業療法②精神科デイケア
③就労支援等
■こんな職場　ベテランから若手までコミュニケーションがとりやすい職場です。近年、身体リハビリにも力をいれています。

医療法人恵愛会青木病院
〒326−0808　栃木県足利市本城1丁目1560番地
☎0284-41-2213
担当:飯山・松坂

投稿大募集!!

ニュースでは、日頃感じている些細な疑問や日常業務で工夫している点、こんな研修会に参加した･･･などなど、皆様からの投稿を募集しております。
どんなことでも構いませんので、
お気軽にお寄せ下さい。お待ちしております!!

アドレス：koha.yuu@yahoo.ne.jp
広報部･ニュース編集グループ
反町拓海

県士会ホームページアドレス
http://www.gunma-ot.org/

編集後記

今号でも、ご協力をいただき、特集記事として当事者の方による文章を掲載させて頂いた。当事者の方からの生の声は、心揺さぶられたり考えることが多くあると思う。ニュースではOTの先生方だけでなく、当事者の方や他職種の方からの掲載依頼も積極的に行っていきたいと思う。宣伝、報告など一つの資源として有効活用して頂ければ幸いである。　S

群馬県作業療法士会ニュース

発 行 者‖新井　健五
発 行 所‖群馬県作業療法士会事務局　〒371-0024 前橋市紅雲町1丁目7番12号　TEL･FAX 027-224-4649
編集代表‖反町 拓海　編集委員‖関　仁紀、下田　幸、辻 千鶴子、大脇 宗雅　印刷‖星野印刷株式会社